



# 竹松ものがたり

やさしく かしく たくましく

令和5年6月27日  
大村市立竹松小学校  
発行 石司 貴弘

6月26日(月)～7月7日(金)

だけまつしょう しゅうかん  
**竹松小さわやかあいさつ週間**



あいさつ週間中、学校掲示をお願いします。

「おはようございます!」登校してくる子どもたちへ、そして近くを通る地域のみなさんへ、子どもたちのさわやかなあいさつの声が響きます。写真は、6年生のみなさんがあいさつのお手本を見せている様子です。お互いに眼と眼をあわせて声をかけあうことで、さわやかに一日が始まります。

今週は「**竹松小さわやか あいさつ週間**」と位置づけ、みんなで取り組んでいます。生活指導担当の戸村教諭・馬場教諭の指導のもと、生活安全委員会の子どもたちが中心に動いています。朝だけではなく、廊下ですれ違う時にも立ち止まって、「こんにちは!」と声をかけあう姿が見られます。

左の写真は6月16日の朝の様子です。大村市民生委員・児童委員協議会のみな様が学校で子どもたちを迎えてくださいました。普段よりもたくさんの「あいさつ」の声、が響く気持ちのよい朝になりました。日頃から子どもたちの安全を見守り、あいさつの手本を見せてくださる方々にあらためて感謝いたします。

以前、他市で社会教育関係の研修会に参加した折、次のようなことが話題に上りました。

大人は、子どもたちに「あいさつをしましょう」と言うけれど、朝の立哨活動をしていて気になるのは、大人どうしのあいさつが今一つもの足りないことです。大人みんなで、子どもの手本となるようなあいさつを交わしたいと思うのですが…。

竹松小学校の正門前で朝の立哨指導をしていると、通勤途中の地域の方、お子さんと一緒に歩いてこられる本校の保護者様、そして中学生や高校生も…ほとんどの人があいさつをしてくださいます。中には国道の反対側から帽子を振りながら笑顔いっぱい声をかけてくださる方もいます。子どもたちに、「あいさつをしなさい」と100回言うよりも、こんな姿を見せる方がよっぽど教育効果が高いはずです。本校職員が率先して明るくさわやかにあいさつをするよう心がけます。みな様のご協力をいただければ、それが子どもたちの力になると信じます。よろしくお願いします。



## 茶の湯文化 体験学習

表千家流大村会のみな様にご来校いただきました。教室に畳を敷いて特設の茶室をつくり、6年生の子どもたちが真剣な表情で、体験学習に臨みました。

座り方、お辞儀の仕方、お茶のいれ方、いただき方など、古来から伝わる礼法を実際に体で学びます。茶の湯について文字で書かれていることを読めば、知識としては身に付けることはできます。しかし、実際に作法を体験してみると、人に対する敬意や感謝などの「心」を感じることができます。頭を使う学習も大切なのですが、こうやって実際に体で学ぶこともまた素晴らしいことだと実感することができました。

「お茶を通してお互いの心が通うように感じました」という子どもの感想に、この学習の素晴らしさが表れています。お忙しい中にご指導いただきました 表千家流大村会 のみな様に心からのお礼を申し上げます。

## 図書ボランティア「バンブー」のみな様 ありがとうございます！

子どもたちは読み語りの時間を楽しみにしています。学年にかかわらず、絵や文、そして読み手の声や表情、でつくられる本の世界に入り込み、想像力を膨らませます。今の世の中は、情報電子メディアによる音楽や動画などの情報があふれていますが、やはりあたたかい人の語りにこそ、伝える力がある、ということを実感するのです。

子どもは、読書を通して、時間・空間を越えて異なる世界の人・もの・ことにふれ、心を動かし、学びを深めます。読書をするということは、知識の獲得とともに、言葉を介した経験を蓄えることであり、それは子どもの夢、憧れ、志を育み、時代の変化に関わらず子どもの心の成長を支えます。

これは、長崎県教育委員会が策定している第四次長崎県読書活動推進計画に謳われている内容です。やはり、読書は子どものためになる…間違いのない事実です。「子どものためになることならば、大人ができることをやろう」…バンブーのみな様の活動の様子から、そんな心意気が伝わります。

読み語りだけでなく、図書の整理や補修、図書室内・廊下の環境づくりなど、子どもが本に興味を抱くような取組をしてくださっています。これらの活動は、子どもの育ちとして様々な形で実を結ぶと信じるのです。ありがとうございます。

※バンブーの活動にご興味がある方はご連絡ください

